

はじめてのエンタープライズサーチ 【Level100】

# 検討のために知っておきたいこと

2025年9月4日(木) 13:00

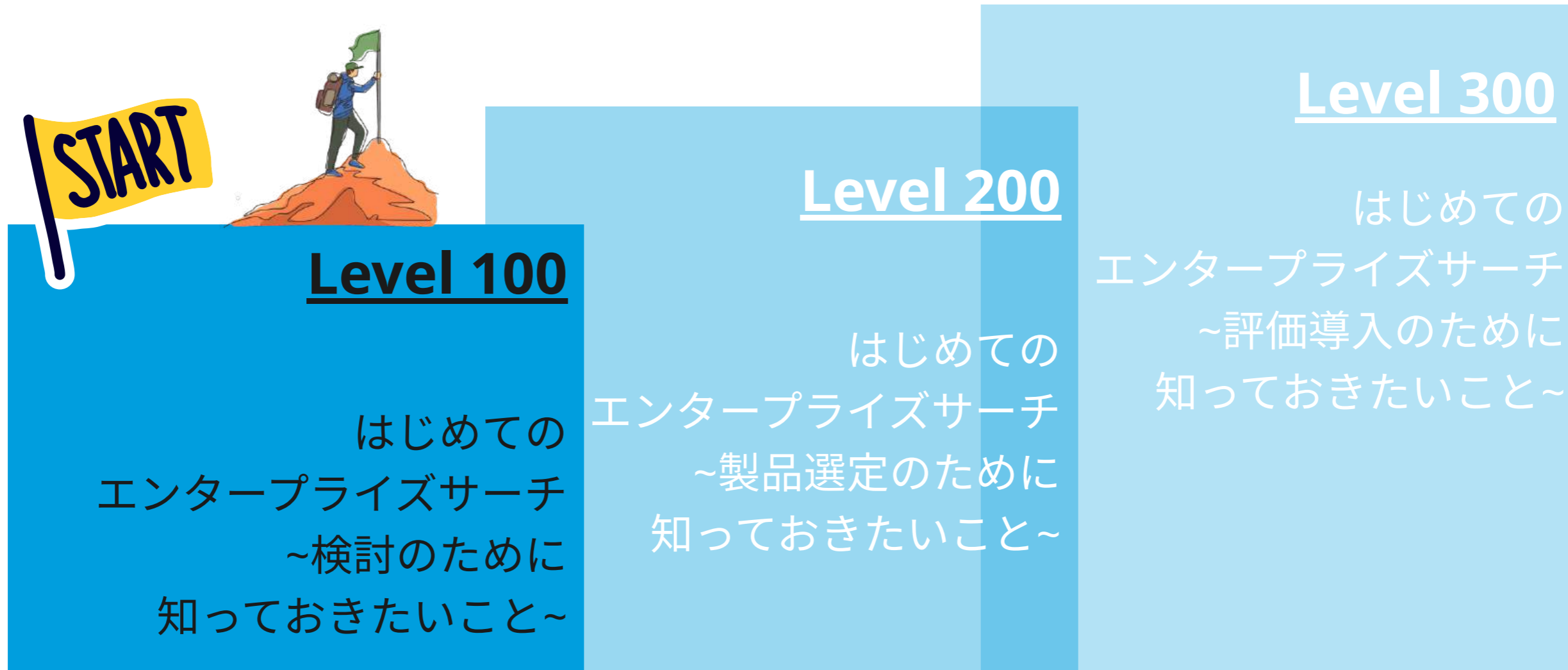


ブレインズテクノロジー株式会社



# 本セミナーの位置付け

エンタープライズサーチの検討をお考えの方に向けた  
3ステップのシリーズセミナーです



# 本セミナーの目的

社内情報検索の課題を検討するために必要な基礎知識を習得する。  
(弊社製品の内容については扱いません)

## 【想定している参加者】

- 初めてエンタープライズサーチの利用について検討する方
- ITに詳しくないが、検索エンジンに興味がある方
- 上司や周囲の方と課題感を共有したい方





エンタープライズサーチの導入効果について社内で  
議論できるようになる



# 本日の内容

①

お客様の課題とエンタープライズサーチの関係

🔍 めくる

②

エンタープライズサーチ導入のケーススタディ

🔍 めくる

③

課題整理と導入効果の試算の例

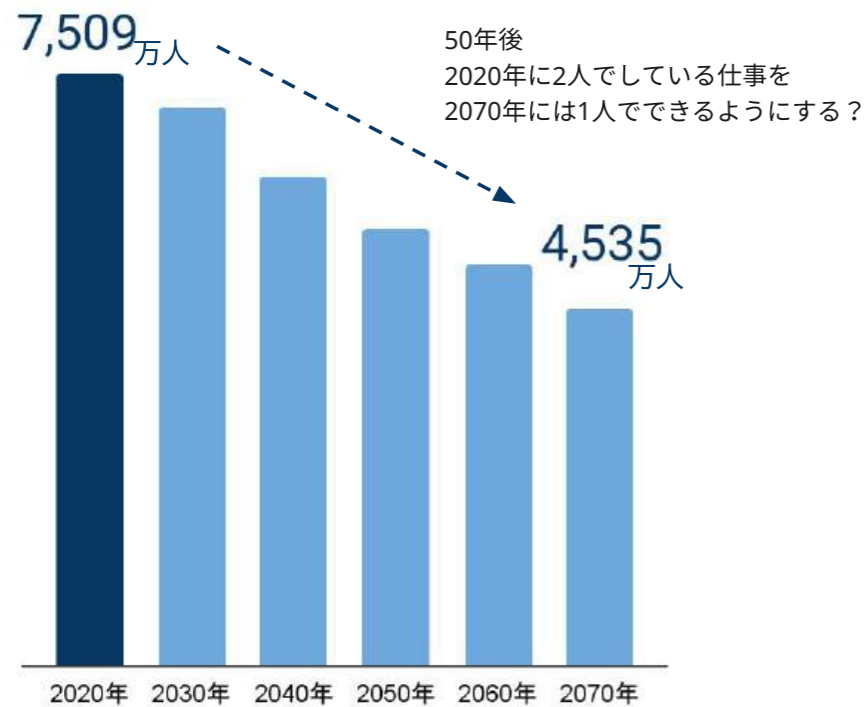
🔍 めくる

セッション終了後にmiroボード上でご質問をお受けします

# お客様の課題と エンタープライズサーチの関係

データを活用しきれずDXを実現できない企業は、市場の変化に対応してビジネス・モデルを柔軟・迅速に変更することができず、**デジタル競争の敗者になる恐れがある**(経済産業省)

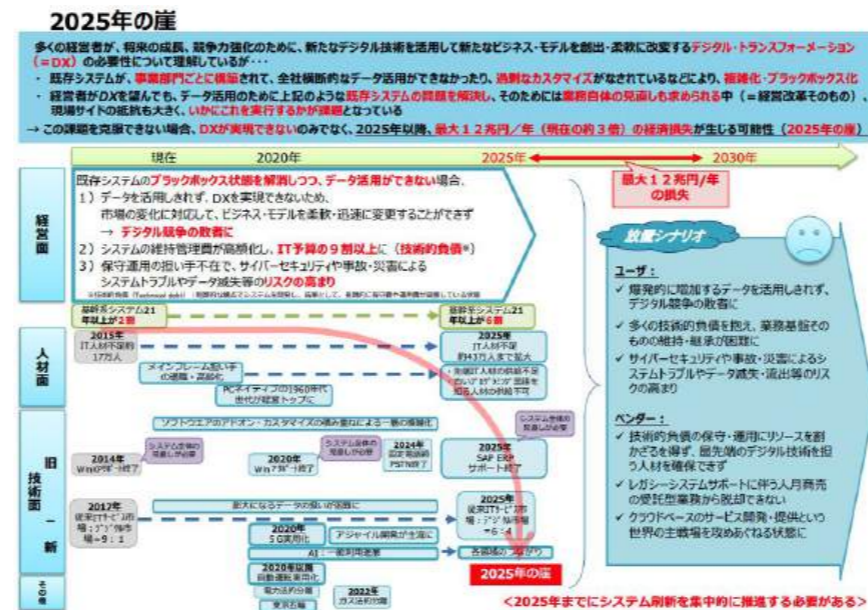
## 生産年齢人口の減少



**-2,974万人**  
[2020年→2070年]



## 2025年以降の経済損失



**最大-12兆円/年**  
[2025年→2030年]



\*1 内閣府「令和5年版高齢社会白書」 \*2 経済産業省「DXレポート」 \*3 DX推進ポータルで検索した認定事業者数

## 政府によるDX認定制度の推進



**1604社**  
[2025年9月1日時点] \*3



中小企業の企業数・事業所数  
中小企業の企業数については、2021年6月時点で336万者となりました。

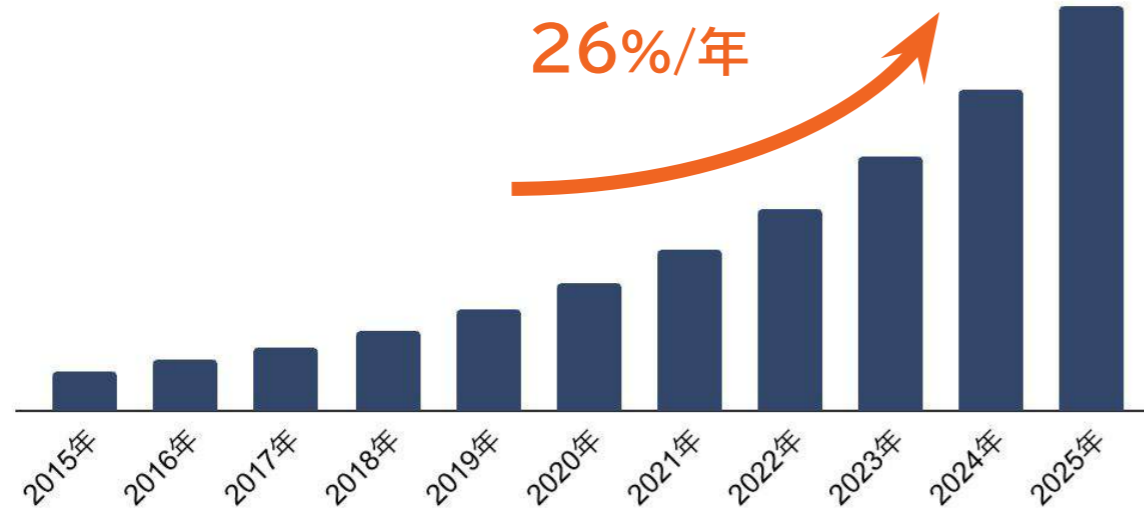
業種	企業数	事業所数
製造業	100,000	150,000
建設業	50,000	70,000
卸売業	30,000	40,000
小売業	20,000	30,000
サービス業	150,000	200,000
その他	10,000	15,000
合計	336,000	450,000

www.chusho.meti.go.jp  
Title

中小企業庁では、令和5年6月27日に総務省と経済産業省が公表した、「令和3年経済センサス活動調査」のデータを分析し、中小企業・小規模事業者数の集計作業をとりまとめました。

デジタル化が進み、複数のシステムに情報が散在することで  
オフィスワーカーは必要な情報にたどり着く事が困難となり、更なるコスト増加を招く

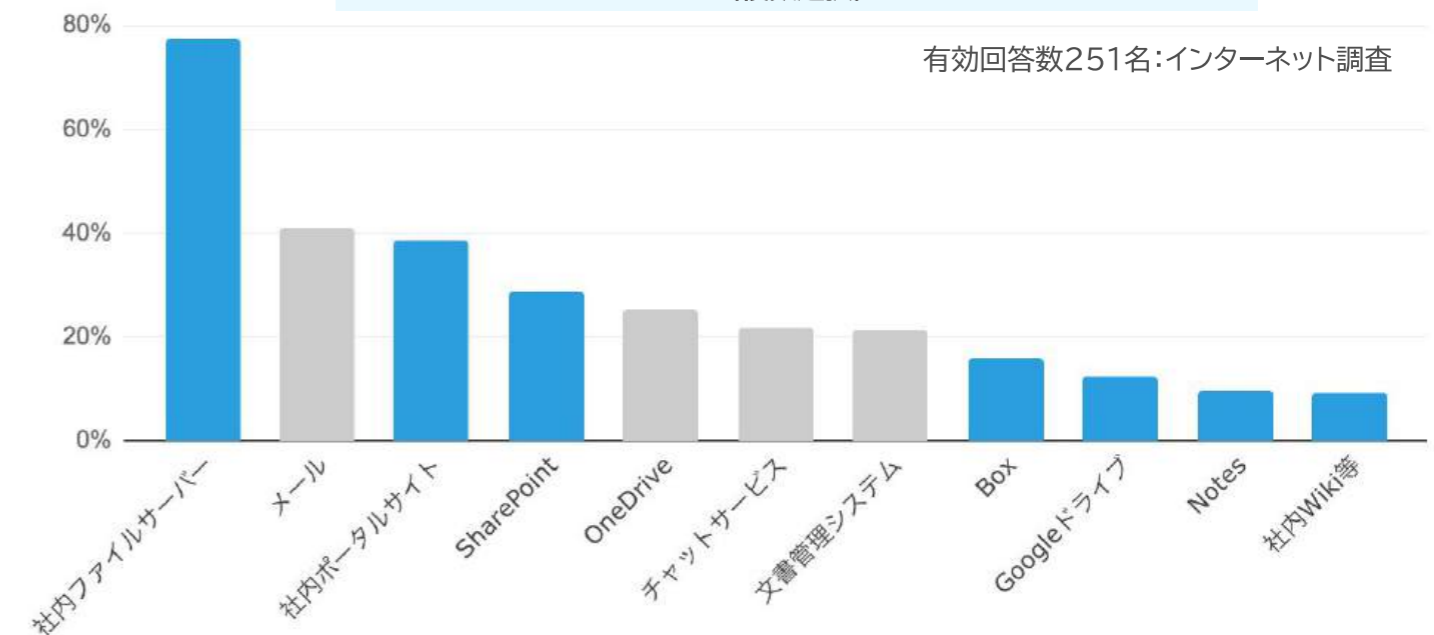
## 企業がもつデータは年々増加\*



\*出典:The Seagate Rethink Data Survey, IDC January 2020 "The Growth and the Sprawl of Data"

## 多様化する情報保管場所

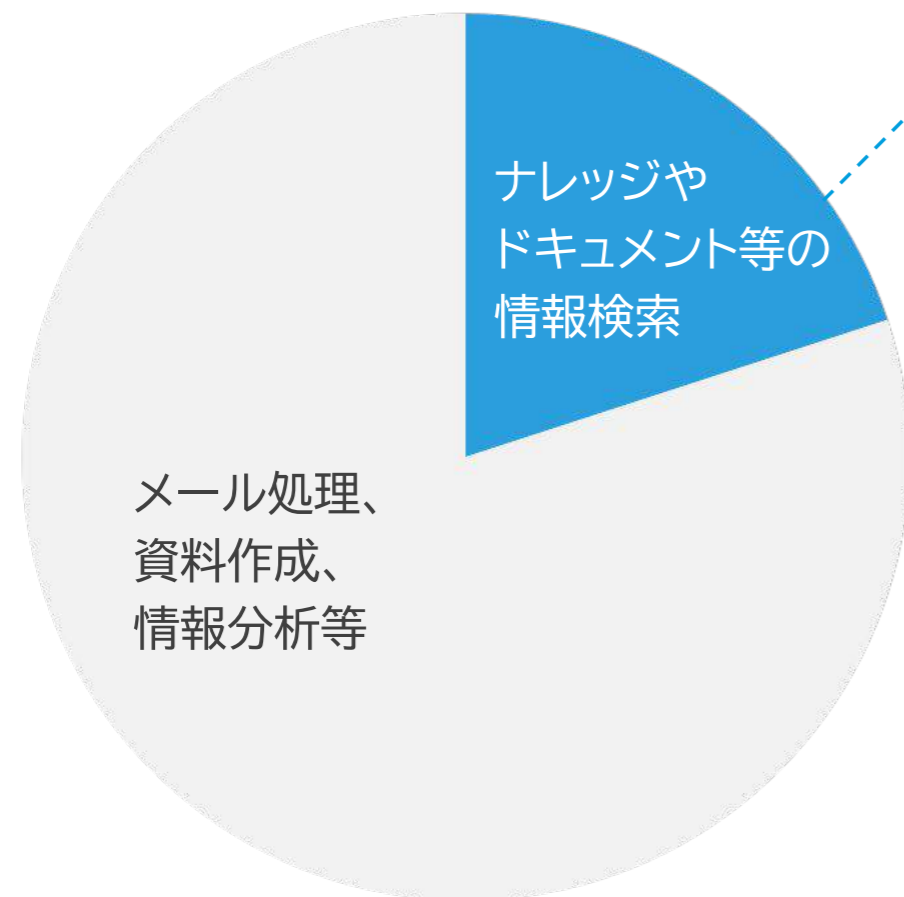
Q. 貴社で採用している社内情報の保管場所  
(複数選択)



有効回答数251名:インターネット調査

技術伝承、知識の共有、過去の情報活用を進める必要がある

オフィスワーカーは情報入手のために多大な労力を払っており、  
企業は年間数千万円以上の見えないコストを抱えている



1日の労働時間における情報検索時間の割合

- オフィスワーカーは**労働時間の約20%\***を情報検索に費やしている

「ベテラン社員に聞かないと資料が探せない」  
「エクスプローラーのファイル名検索では時間がかかる」  
「異動してきた人が資料を探せない」

- オフィスワーカー**100人**規模の場合、情報検索に費やしているコストは**約9,200万円/年**

<前提条件>

- ①企業規模: オフィスワーカー**100人**
- ②平均年収: **458万円**\*2
- ③検索・情報収集時間: **20%**\*1
- ④労働時間を40時間/週と想定



www.mckinsey.com  
**The social economy:  
Unlocking value and  
productivity through  
social technologies**  
The most powerful applications of social technologies in the global economy are largely untapped. By using social technologies, companies can raise the productivity of knowledge workers by 20 to 25 percent.

\*1 McKinsey Global Institute analysis「The social economy: Unlocking value and productivity through social technologies」

\*2 国税庁 令和4年 民間給与実態統計調査結果

# 1人あたりの1週間の労働時間の内訳の想定

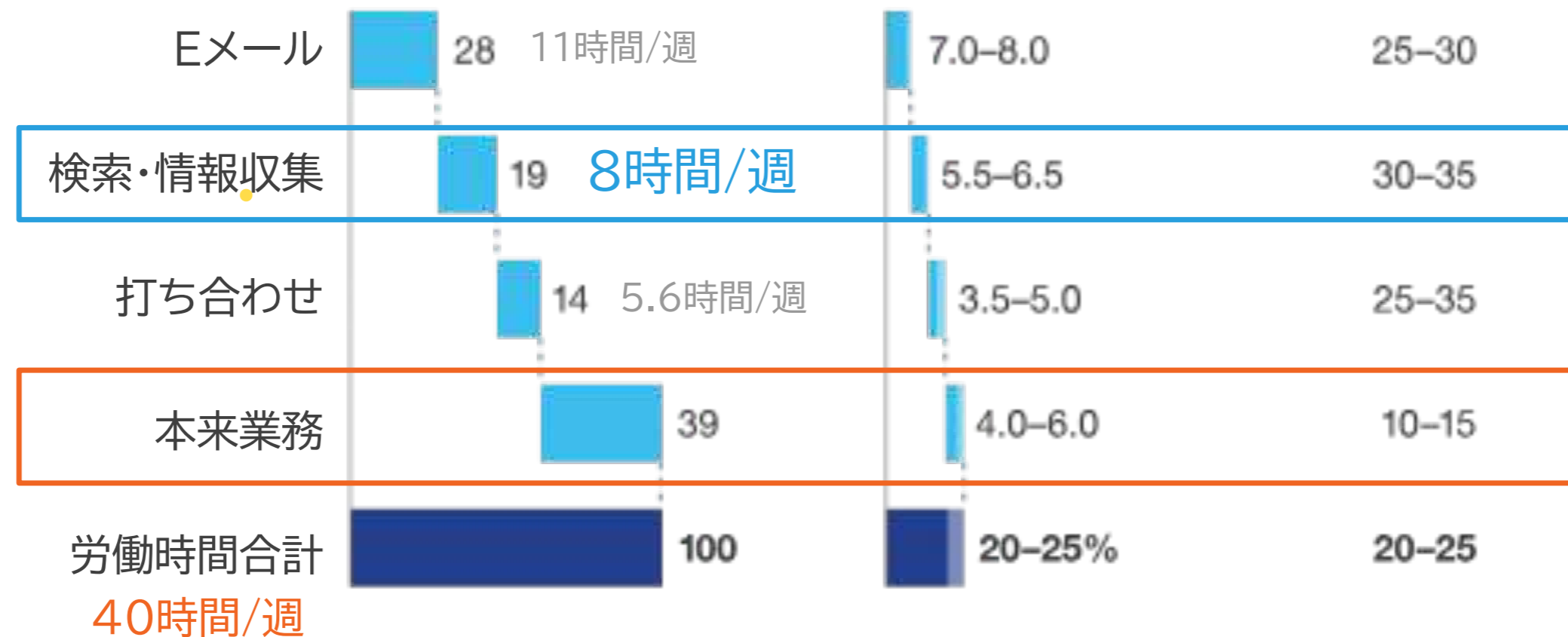
企業内のコミュニケーション・知識共有にテクノロジーを活用することで  
 検索・情報収集業務に対し**30%~35%の生産性向上**が期待されている

平均的な1週間の労働時間に対する割合 /%

インタラクションワーカー★  
 のタスク

増加する  
 付加価値時間

テクノロジーの活用  
 による生産性向上率  
 %



本来業務にかけている  
 時間は**40%未満**

エンタープライズサーチ  
**2.5時間/週**

←増やしたい

「インタラクションワーカー」とは、他者との「出会い」や「接触」（＝インタラクション）を通じて価値を生み出す働き方や職種に従事する人を指します。この言葉は、ナレッジワーカー（知識労働者）などと並び、現代のオフィスや組織において「人と人の相互作用」が重要な役割を果たすことを強調する文脈で使用されます。MITのトマス・アレン教授は「ナレッジワーカーこそが出会わなければならない」と述べており、知識や情報、アイデアの交換・共有・コラボレーションを通じて新たな価値を生み出す人々を「インタラクションワーカー」と呼ばれます。単なる個人作業ではなく、他者とのコミュニケーションや協働を通じて成果を出す人が「インタラクションワーカー」といえます。

アレン教授の「30メートル理論」：  
 トマス・アレン教授（MIT）が提唱した「30メートル理論」は、組織内でのコミュニケーション頻度が物理的な距離に大きく依存するという法則です。コミュニケーションの頻度と距離の関係：人と人の距離が近いほどコミュニケーションの頻度が高くなり、30メートルを超えるとその頻度が急激に減少するというものです。この理論は、研究所やオフィスの空間設計において、偶発的な出会いや交流の機会を最大化するための重要な原則となりました。また、アレン教授のデータからは、日常的なコミュニケーションが多い組織ほど高い成果を上げていることも示されており、空間設計と知的生産性の関係性が実証されました。

Thomas J. Allen, "Managing the Flow of Technology: Technology Transfer and the Dissemination of Technological Information within the R&D Organization" (MIT Press, 1977)

Source: International Data Corporation (IDC); McKinsey Global Institute analysis

参照元: McKinsey Global Institute analysis「The social economy: Unlocking value and productivity through social technologies」を元に当社で作成

# エンタープライズサーチのケーススタディ ～導入の進め方/導入効果～

# 導入先一覧(代表例)

## 製造業



### 【官公庁】

中央省庁 : 総務省、防衛省、厚生労働省、国土交通省

自治体 : 秋田県、仙台市、石川県、金沢市、横浜市、埼玉県、名古屋市、兵庫県、大阪府、神戸市、京都市

その他 : 理化学研究所、日本下水道事業団、科学技術振興機構、海洋研究開発機構、警視庁、愛知県警察、千葉市教育委員会等

## 情報通信業



## 建設業



## その他





## 導入の背景

全社的な働き方改革を推進するにあたり、従業員へ「オフィスでの困りごと」についてアンケートを実施したことでした。実際にアンケートでは「過去の資料やデータを探すのに時間がかかる」「検索しても見つからない」「そもそも存在するのかわからない」といった意見が多く挙がりました。

## 決め手

導入の一番の決め手となったのは、導入コストに対して、工数削減の効果が大きいと判断できたことです。次に大きかったのは、初心者にも優しいツールだったことです。通常新規のシステムを導入する際は、操作説明等に時間がかかります。

## 導入効果

ヒアリングによると、1人あたり月間10時間以上ものムダ時間の削減に貢献していることが分かりました。(利用者数全体では1,400時間程)  
これまで記憶を頼りに行っていた情報収集が、Neuron ESによって欲しい資料がすぐに見つかるようになり、本来の業務に充てる時間の確保がしやすくなりました。

Neuron ESにおいては評価期間含めてほぼ操作説明が不要で、従業員も直感的に使ってくれたため、導入後すぐに利用が定着すると思えました。

いつでも気軽に好きなキーワードで社内のナレッジを検索できるので、新しい働き方との相性も良いと思います。



ナレッジ活用で1000時間/月以上の削減

「Neuron ES」の検索スピードは群を抜いています。ユーザーに実際に製品を触ってもらうと一言目には必ず「早い！」と驚きの声が出るほど。

目的の文書に素早くたどり着けるようになっただけでなく、**思わぬ文書が見つかる**ようになりました。社内で「**すごい資料が見つかった、ちょっと見て!**」という声をよく聞きます。

## 導入の背景

生産技術部門では、スタッフ業務の生産性向上(業務効率30%アップ)実現のため、まずスタッフの働き方調査を行いました。その結果、スタッフは資料作成に約28%もの時間を費やしており、更に掘り下げてみると「探す・調べる」ことに多くの時間をとられている事がわかったのです。

## 決め手

いくつかの他社製品も含めて検索エンジンの比較・検討を行いました。主に検索スピードの速さとシンプルなUIが決め手となって「Neuron ES」を選定しました。

## 導入効果

～利用対象者約2000人のうち600人(約30%)は毎月Neuron ESを利用しており～省略～我々は「検索のコツ」なども含めてマニュアルを作成し社内に展開しました。

月間の利用人数や検索性数等のデータを元に試算したところ、「Neuron ES」導入前と比較して検索時間1,039時間/月の削減効果があることがわかりました。もともと検索エンジン等のツールを使っていなかったことでもあります。 「Neuron ES」のおかげで欲しい文書にすぐたどり着けており、情報収集における「探す」行為の大幅な削減ができているのは間違いありません。



「働き方改革ITツール」として情報収集効率化貢献

Neuron ESを導入してからは、各資料内にある断片的なキーワードの記憶を辿り、それをもとに検索をかけることができたため、非常に重宝しています。

リモートワーク以前であれば隣の人に聞いていたことでも、ある程度自力で情報を探すという方向に傾きました。それも「Neuron ES」の存在が大きかったと感じています。

## 導入の背景

情報の電子化が進むとともに、社内のデータ量が日々増大し、必要な情報が素早く・タイムリーに探し出せないという弊害が発生していました。～省略～社内で主に利用する部署は、営業部や経理部、品質保証部門などのスタッフ部門、設計・製造部門など多岐に渡っています。普段の業務の中で情報収集や検索に費やす一人当たりの時間とファイルサーバの利用者数を勘案すると、大きな数字になりました。

## 決め手

他社製品も含めて比較・検討を行いましたが、検索スピードの速さとシンプルな操作性でありながらも、必要十分な機能が備わっていることから「Neuron ES」を選定しました。ファイルサーバと社内ポータルサイトを検索対象にし、データ量は約70TB以上。利用対象者約6,000人のうち1,300人(約22%)が毎月Neuron ESを利用しています。

## 導入効果

Neuron ESを導入するまでは、大量の電子データの中から、欲しい資料が存在するかをまず調べ、存在する場合は誰が持っているかを特定し、その上で所在を確認する必要がありました。しかし導入後は、これらの作業を一度の手順で調べられるようになり、情報収集の効率が上がりました。



研究資料、企画書、社内ナレッジの発見・利活用

導入時は比較的若い世代から利用されるのかなと予想していましたが、実際導入してみると、**世代問わず幅広い年代の方から利用されている**ことが分かりました。

**いつでも手軽に目的の情報が検索できる**というのは、若い世代だけでなく、上の年代の方にとっても**心強いツール**になっているようです。

## 導入の背景

検索システムを導入した背景は、過去の研究資料や企画書などをファイルサーバから素早く探し出したいという現場の声でした。～省略～またファイルサーバ内のデータも数10TBの規模に増えており、それらから目的の情報を探すのも容易ではありませんでした。検索システムを導入するまでは、**エクスプローラ標準の検索機能を使用していたため、検索精度は十分とは言えません**。また検索にも時間がかかるため、**何度も検索にチャレンジできない**という課題がありました。そのため、これから取り組む研究や企画などに関連する資料やデータを探し出すことができず、**研究開発業務を繰り返したり、資料を作り直してしまうなど**といったムダも一部発生していたように思います。

## 決め手

普段のインターネット検索のように使いやすいような画面が好印象だったのと、従業員個々のPCにインストールするものではなく、**ブラウザを通じて利用するものであるため、導入・管理が容易**だと判断し導入を決定しました。

## 導入効果

これら検索によって、**過去に取り組んだ研究や企画を繰り返すなどのムダが防げるようになった**だけでなく、**発見した情報や資料を利活用する**など、生産性の向上にも貢献しています。



## 研究資料、企画書、社内ナレッジの発見・利活用

導入時は比較的若い世代から利用されるのかなと予想していましたが、実際導入してみると、**世代問わず幅広い年代の方から利用されている**ことが分かりました。

**いつでも手軽に目的の情報が検索できる**というのは、若い世代だけでなく、上の年代の方にとっても**心強いツール**になっているようです。

## 導入の背景

検索システムを導入した背景は、過去の研究資料や企画書などをファイルサーバから素早く探し出したいという現場の声でした。～省略～またファイルサーバ内のデータも数10TBの規模に増えており、それらから目的の情報を探すのも容易ではありませんでした。検索システムを導入するまでは、エクスプローラ標準の検索機能を使用していたため、検索精度は十分とは言えません。また検索にも時間がかかるため、何度も検索にチャレンジできないという課題がありました。そのため、これから取り組む研究や企画などに関連する資料やデータを探し出すことができず、研究開発業務を繰り返したり、資料を作り直してしまうなどといったムダも一部発生していたように思います。

## 決め手

普段のインターネット検索のように使いやすそうな画面が好印象だったのと、従業員個々のPCにインストールするものではなく、ブラウザを通じて利用するものであるため、**導入・管理が容易**だと判断し導入を決定しました。

## 導入効果

これら検索によって、過去に取り組んだ研究や企画を繰り返すなどのムダが防げるようになっただけでなく、**発見した情報や資料を利活用**するなど、生産性の向上にも貢献しています。



## ファイルサーバの肥大化に伴う検索の効率化

Neuron ESの導入によって**大きく変化したのは、過去資料の有効活用**です。これまでは多くの時間を情報収集にかけていただけでなく、情報が見つからなければゼロから資料を作成していました。しかし導入後は、多くの資料が検索によって発見できるようになり、それらを活用しながら資料作成が行えるようになったため、**格段に業務効率が上がった**と感じています。

## 導入の背景

社長直轄の組織横断的な業務改善活動の一環として、部内で使用する社内ファイルサーバの肥大化に伴い、必要な資料に辿り着けないという課題がありました。

導入当初は、3部署による試験運用からスタートしました。実際の利用者はもちろん社内のエンジニアからも、これまで時間がかかっていた資料探しが効率良く検索できるので、大変便利だという良い評判が聞こえたため導入を決定しました。

## 決め手

現在では社内の主要な部署を含む12部署に展開しています。利用者の数も1年間で300名以上と多くの社員が利用しており、特に若手～中堅の社員から利用されています。検索対象も1000万文書と増加しており、確実に利用も用途も広がっていると感じます。

## 導入効果

アンケート結果では、全体の52%もの社員が効果を実感しているとの回答がありました。利用率の高い部署では66%と非常に高い数字が出ました。

さらに社内でNeuron ESの利用率を上げる施策として、全社会議での発表や、社内のグループウェアで話題として取り扱うなど、地道な周知の活動も続けています。

Neuron ESの良さとして、運用や管理に手間がかからないのも嬉しいポイントです。



分散する社内情報の横断的な検索により業務を効率化。新たなナレッジの発見に貢献。

実際に検索窓を利用する従業員からは、

- ・各ポータルサイトの情報を横断的に検索できるので便利
  - ・検索結果で情報のサマリ(概要)を見ることができる
  - ・検索によってこれまで知らなかった資料を見つけられる
- といった声も挙がっています。

## 導入の背景

各事業会社の社内ポータルサイトがスマートフォンなど多様化するデバイスでは閲覧しづらい、そもそもポータルサイトがグループ内で乱立し、欲しい情報に素早く辿り着けないなどの声もあり、全社共通の社内ポータルサイトの立ち上げに至りました。従業員向けの社内ポータルや広報サイト、ブログ、業務システムなどは、はっきりとした数は分かりませんが、グループ全社で150~200ほど存在すると思います。各サイトごとにデザインや情報の構造も異なるため、参考となる情報や利活用できる情報が掲載されていたとしても、ほとんどが埋もれている状態でした。もちろん各サイト内には検索窓が設置されていたりもしますが、そもそも欲しい情報がどのサイトに載っていたかを思い出すことができなければ、辿り着くことができませんでした。

## 決め手

膨大な情報量や検索対象からでも素早く検索結果を返すことができるのは大きな魅力でした。その上で、検索対象を細かく設定できたり、システムを利用するにあたって必要なリソースが見積りしやすい(サイジング・稼働率など)、情報のクローリング処理が早い(次の日には検索結果に表示される)など、管理者にとって嬉しいポイントが充実しているのも大きかったと思います。

## 導入効果

欲しい情報に辿り着くまでの時間短縮に繋がるだけでなく、新たなナレッジの発見にも貢献しているのではないのでしょうか。



## SharePoint Onlineの検索性向上

検索システム導入によって改めて感じたのは、“**仕事のテンポを止めない**”ことの重要性です。やはり業務を行う中で、必要な情報や資料の検索に時間がかかってしまうと、**本来時間をかけるべきことに時間が使えない**だけでなく、仕事にもテンポが生まれにくく、結果として生産性の低下にも繋がるのではないかと考えています。

## 導入の背景

取り組みの背景には、弊社が掲げるDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進にあたり、全社的な「情報共有・連携」を密にするため、社内の情報伝達の強化、ナレッジ共有を目的とした再編成を進めたことがあります。その中のひとつにクラウドストレージ(SharePoint Online)への移行がありました。移行を進めるにあたり、新旧ストレージが混在する問題があり、これらを横断的に検索できるツールを求めています。また、クラウドストレージ(SharePoint Online)標準の検索機能では、全文検索や横断検索など、求めている十分な検索が行えなかったこともあり、それらを解決する精度の高い検索システムを探する必要がありました。

## 決め手

いくつか自然言語処理のツールを検討しましたが、検索結果のスピード・精度・ユーザビリティの面において「Neuron Enterprise Search」が非常に優れていたため、それらが導入の決め手となりました。

## 導入効果

従業員が新旧どちらのストレージにファイルが保存されてるかを意識する必要もなく、しかもスピーディに目的のファイルを見つけられるようになったため、以前と比べて利便性自体も高くなったと感じています。SharePoint Online標準の検索では精度が不十分であった全文検索にも対応したので、社内規定やマニュアル、申請書といった書類を検索するのにも役立っています。



NeuronESの導入とフォルダ整理の工夫により、文書ファイルをBox上の共有フォルダにアップさえすれば、それがきちんと検索でヒットするようになったためか、**利用する従業員の中で、文書(=ナレッジ)をしっかりと残していく風土が生まれている**ようにも感じます。

## 導入の背景

DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進にあたり、文書の電子化、共有化、管理の効率化を目的とした全社的なクラウドストレージ「Box」への移行がありました。Box移行後の次のステップとして、Box内に格納された文書ファイルの“全文検索”を可能とする検索システムの導入による、検索作業の効率化・社内ナレッジの活用促進が必要になると考えました。Box標準の検索機能では、基本的にファイル名が優先されるため、必要とする文書にすぐに辿り着けないという課題がありました。特に施工計画書や技術論文などの文書を扱う建築・設計部門からの要望もあり、課題解決のための検索システムの検討を開始しました。

## 決め手

他にもいくつか企業向けの検索システムを探しましたが、当時、機能面として必須要件であったBoxの全文検索ができるのは「Neuron ES」だけであったのが決め手となりました。また、導入時のサポートや金額面での調整など、柔軟な対応をしていただけたことも好印象でした。

## 導入効果

特にBox標準の検索と比較しても検索結果が出るまでのスピードが早く、体感としては一瞬で表示されるため、**検索結果が出るまで待つ必要が無い**です。また、検索結果の候補が多い場合には、さらにファイルの取得元(フォルダ)やファイル形式(拡張子)などで絞り込めるため、**欲しい情報に効率良く辿り着くことができる**ようになりました。



検索がたった数秒に！  
社内ナレッジの発見や素早い顧客対応を実現

特に技術用語による検索は、業務の予習を行う場面で有効なだけでなく、社内ナレッジの発見にも繋がっていると思います。また顧客名や製造番号での検索では、顧客からの問い合わせにも素早く対応できるようになりました。

## 導入の背景

社内のDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する中で、業務における課題を従業員にヒアリングしたことがきっかけでした。その中で、膨大な社内のデータ(ファイルサーバ)から欲しい資料や情報が素早く見つけれずに困っているという意見がいくつか挙がりました。サーバ内には、20年以上前の資料や類似ファイルなども存在し、決して整理できているとは言えません。普段よく利用する特定のフォルダやディレクトリであれば、構成も把握しているため、比較的素早く目的のファイルへアクセスできますが、それ以外から探すとなると、どのようなキーワードで検索したら良いか分からないだけでなく、エクスプローラでの検索はとても時間がかかります。そのため、検索に何度もトライすること自体が現実的ではありませんでした。

## 決め手

いくつか類似製品も探しましたが、普段のインターネット検索のような直感的な検索画面で使いやすそうだと感じたのと、実際に動作や検索のスピードが早かったのが好印象でした。

## 導入効果

顧客名はもちろん、工番と呼ばれる製造番号や技術用語など、断片的な記憶として残っているキーワードからでも検索によって目的の資料へ辿り着くことができるようになりました。導入前は従業員が利用してくれるのか少し不安もありました。しかし実際に導入してみると、様々な部署や年代の方も利用してくれているので安心しました。



設計担当者が過去に作成した資料を営業担当者でも検索できるようになったので、**社内での問い合わせ工数も削減**できています。さらに、若手社員が自ら社内のノウハウをこの「Neuron ES」で検索して、**自己解決に至るシーンなども増えています**。

## 導入の背景

過去に類似資料を作成しているにも関わらず、その資料の存在を知らないため新たに作成してしまうといった課題がありました。

ファイルサーバの中を検索するには、Windowsのエクスプローラを利用するほかありませんでした。そのため、検索に時間がかかったり、ファイルの中身まで検索できず、目的の資料にたどり着けないなどの課題もありました。このような課題を解決するために、当初はファイルサーバの中身の整理を考えていましたが、ファイルの要不要の判断や適切な命名などは、現場の担当者ですら判断が難しく時間もかかることから、ファイルサーバの整理ではなく、いかにデータを活用できるかに着目して解決策を探るようになりました。

## 決め手

類似製品との比較も行いましたが、当社の活用範囲において機能面で全く差がないにも関わらず、コストパフォーマンスに優れていたため「Neuron ES」を選定いたしました。

また、導入前から我々の要望に丁寧に対応、及び導入支援から本稼働後までフォローしていただいたおかげで、滞りなく導入することができました。

## 導入効果

これまで行っていたエクスプローラでの検索と比較して検索スピードが圧倒的に速く、欲しい情報に短時間で辿り着くことができました。計画値ベースではありますが、一日あたりの検索回数と当社の営業日を掛け合わせると、月間で230時間以上もの業務時間の削減に繋がっています。



工事写真の黒板の文字まで検索対象に

例えば、水道関連の工事で15kWのポンプを用いる場合、Neuron ESで「15kW」と検索すれば、**過去の同じような案件の図面を探し出すことができます**。「Neuron ES」は、こうした**過去事例や履歴もスピーディに検索できる**ため、**ナレッジマネジメントにも役立っている**と感じます。

## 導入の背景

プロジェクトを効率的に進めるには、どうしても過去のデータが必要になってきます。そこで、ファイルサーバにアクセスして検索するわけですが、その検索に時間がかかってしまうことが大きな課題でした。

検索に時間がかかる理由は、ファイルサーバが整理整頓されていないことが挙げられます。ルートフォルダは我々で管理していますが、サブフォルダやファイル名の命名規則などは部門ごとのルールになっており、統一されていないので素早く検索しづらい状況です。

しかも、現場は目の前の業務で手が離せないことが多いため、我々技術本部への検索依頼も頻繁にあります。ベテランであれば大体の場所を覚えていることもあります。そういったメンバーは全体の一握りです。

## 決め手

工事写真は「IMG\_XXXX.jpg」などデフォルトのファイル名のまま保管している場合も多く、ファイル名での検索は難しい状況。これまでは面倒でも画像データを開いて探し出すしかありませんでした。どうにかして大量の画像データを検索できないかと考えていたところ、「Neuron ES」にOCR機能が標準搭載されていることを知りました。

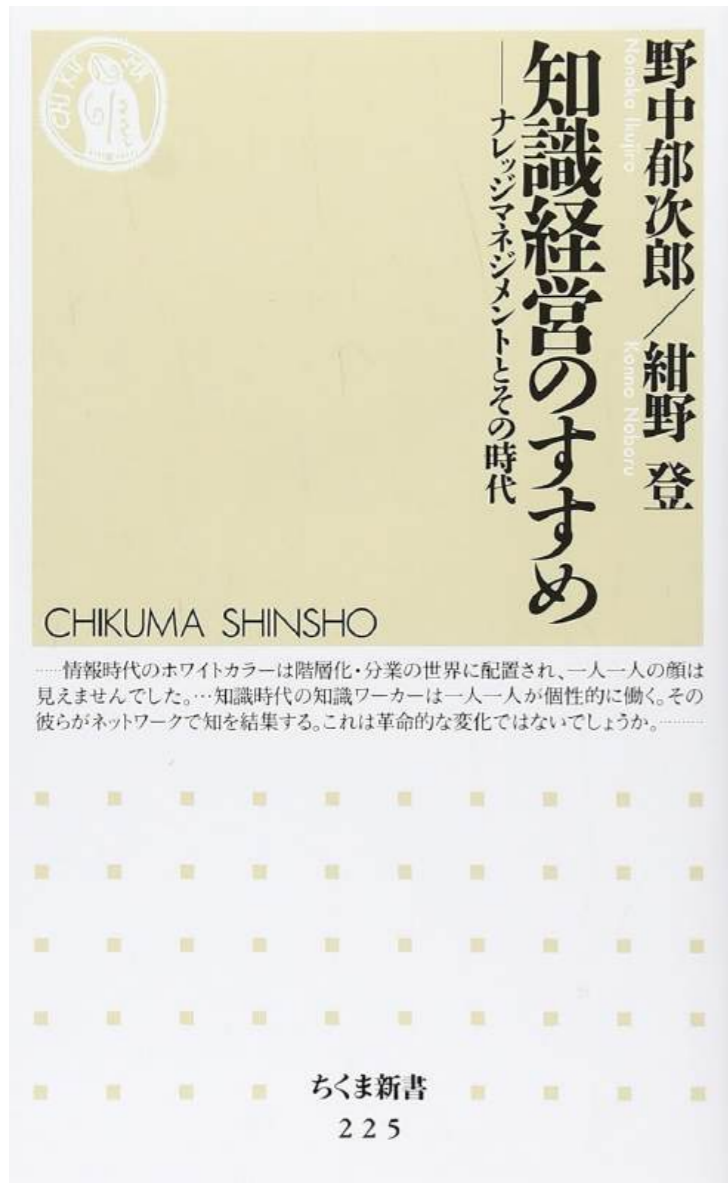
## 導入効果

ユーザーの立場からも速いと感じます。検索開始ボタンを押してから1秒前後で検索結果が表示されますから、まったくストレスがありません。何よりも、目的のファイルにたどり着く時間が速くなりました。「Neuron ES」導入前は見つけ出すまで15~30分は要していたと思います。導入後は数分で見つけられるようになりました。

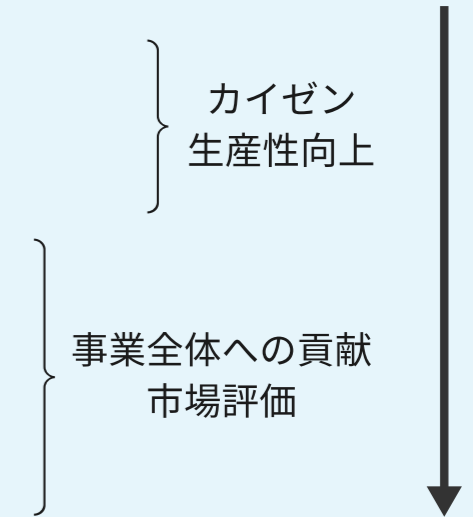
課題整理の例

導入効果の試算の例

# ナレッジマネジメントの効果とは？



## 効果の尺度



## エンタープライズサーチの効果の場合

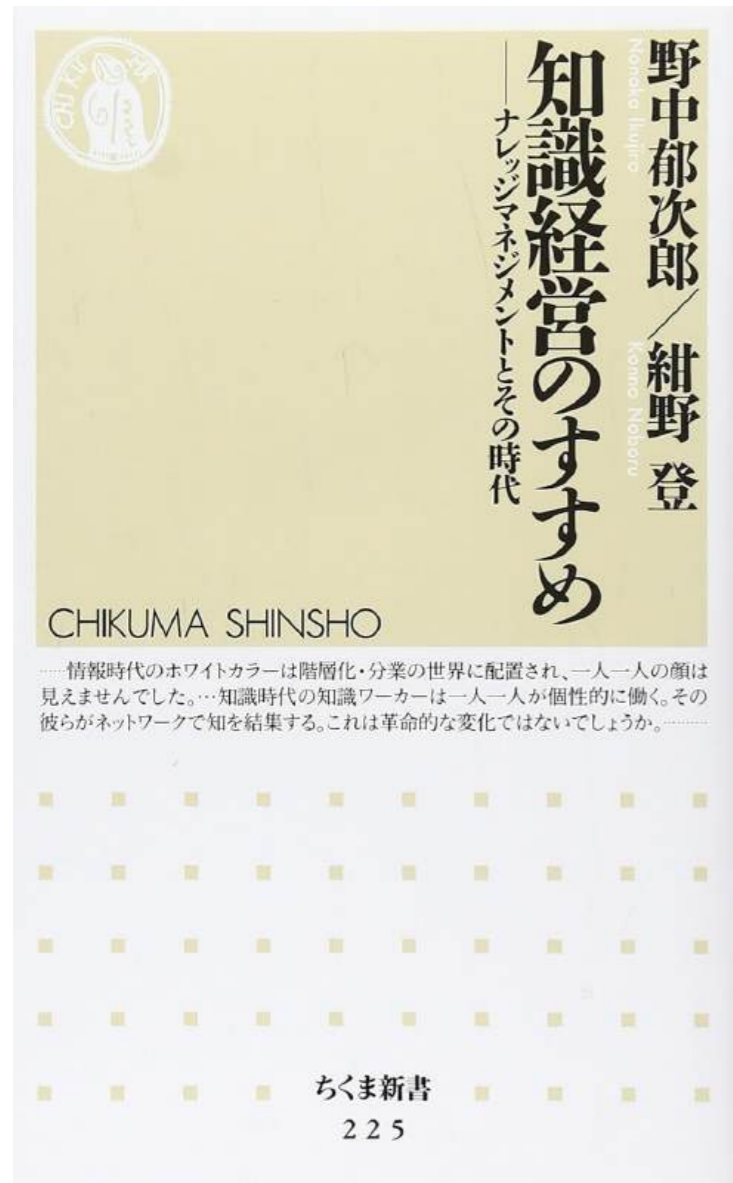
# ナレッジマネジメントの進め方

知識経営のすすめ: ナレッジマネジメントとその時代  
(ちくま新書 225)

## 野中郁次郎先生の書籍を参考に作成

### どう進めるか？

1. 実態を把握し、問題を特定して明らかにする。トップや部門長と課題を認識する。
2. 当社にとって必要なナレッジマネジメントの定義と範囲を決める。
3. 事例研究をする。
4. IT環境の整備と組織的仕組みをデザインする。必要なら、担当役員の設置や現場の推進役の設置を検討する。
5. 課題のある現場を対象に評価導入を行う。
6. 組織的に継続してサポートする。



# トップや部門長と課題を認識する

## お客様事例より抜粋

### デンソー様

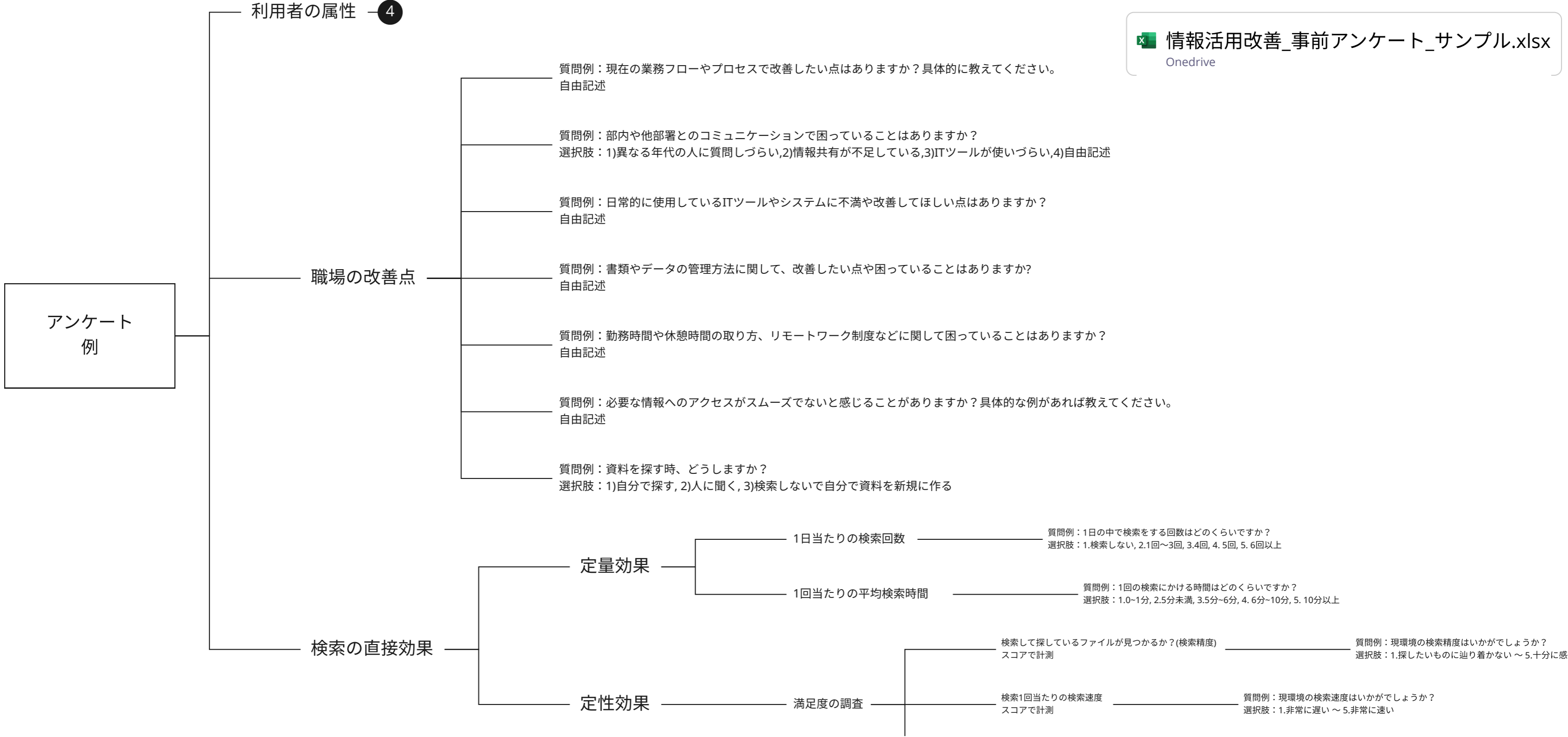
取り組みの背景としては、全社的な働き方改革を推進するにあたり、従業員へ「オフィスでの困りごと」についてアンケートを実施したことでした。

### アイシン様

生産技術部門では、スタッフ業務の生産性向上（業務効率30%アップ）実現のため、まずスタッフの働き方調査を行いました。その結果、スタッフは資料作成に約28%もの時間を費やしており、更に掘り下げてみると「探す・調べる」ことに多くの時間をとられている事がわかったのです。

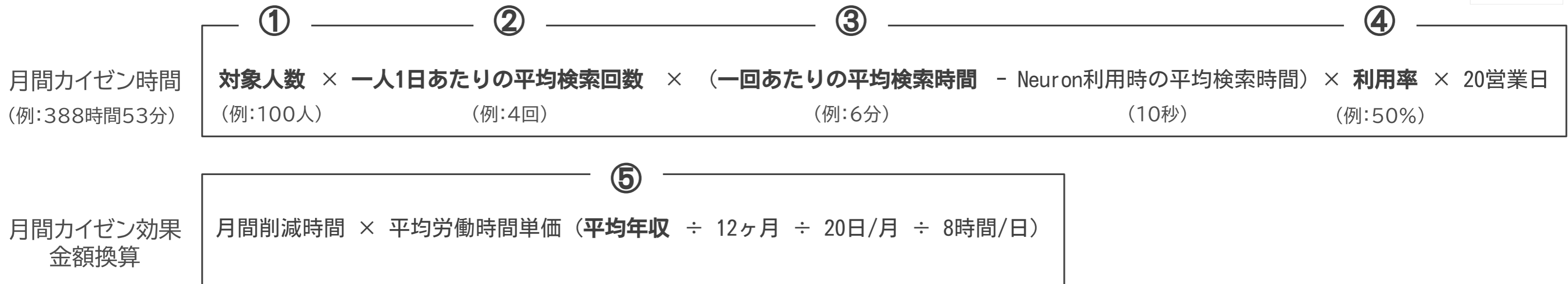
# アンケートのサンプル

情報活用改善\_事前アンケート\_サンプル.xlsx  
Onedrive



# カイゼン時間を試算し、投資効果の仮説を立てる

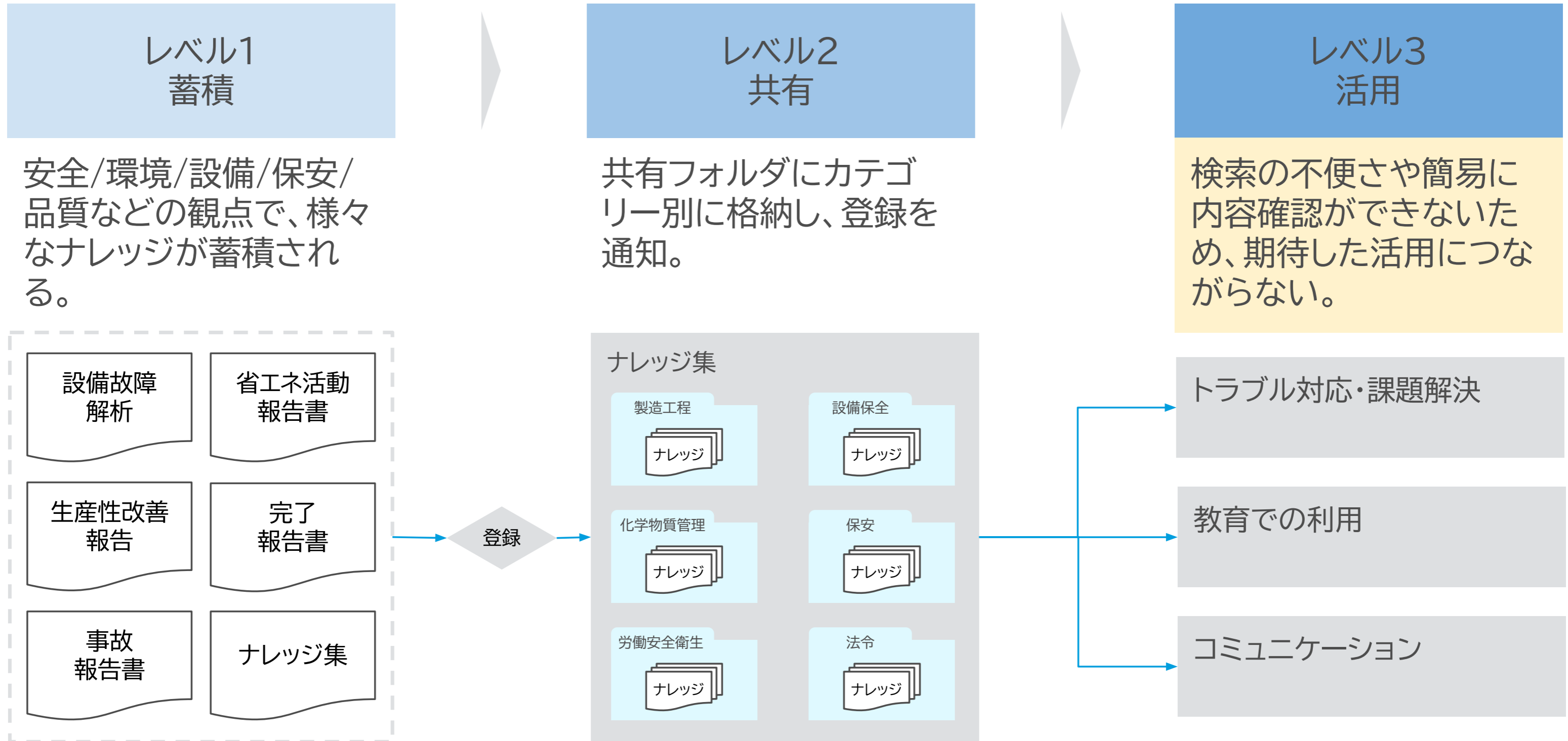
直接的な定量効果を試算する。太字が変数。



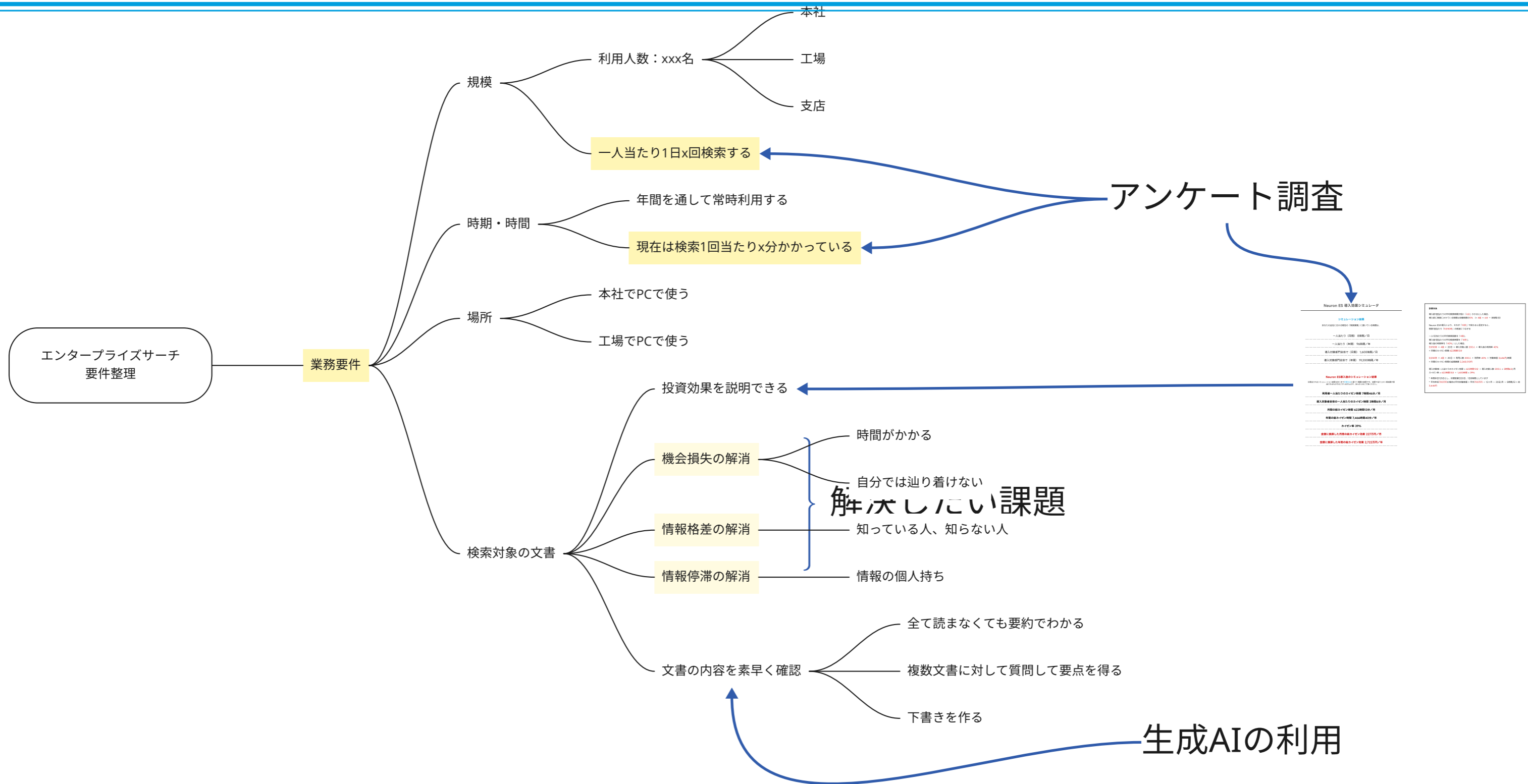
直接的な定性効果の仮説を立てる。

導入前	導入後
過去の資料の存在に気づかず、同じ資料を作っている	過去資料の活用による資料作成のスピード向上と資料の品質向上
ベテラン社員に資料があるか聞く	人に聞かなくても自分で資料を見つけられるようになる
似た名前のファイルが多い(定例会議_202410.docx、など)	似た名前のファイルが多数あってもどれが最新かわかる
権限がないファイルは存在すらわからない	権限が無いファイルでも検索結果に出る(権限設定が必要)
ファイルが有るのか無いのかわからない	検索結果が0件のキーワードがわかるようになる

# 製造業の生産領域における過去トラのナレッジ活用の例



# 課題の検討例



# 「整理整頓すれば良い」との意見が出たら

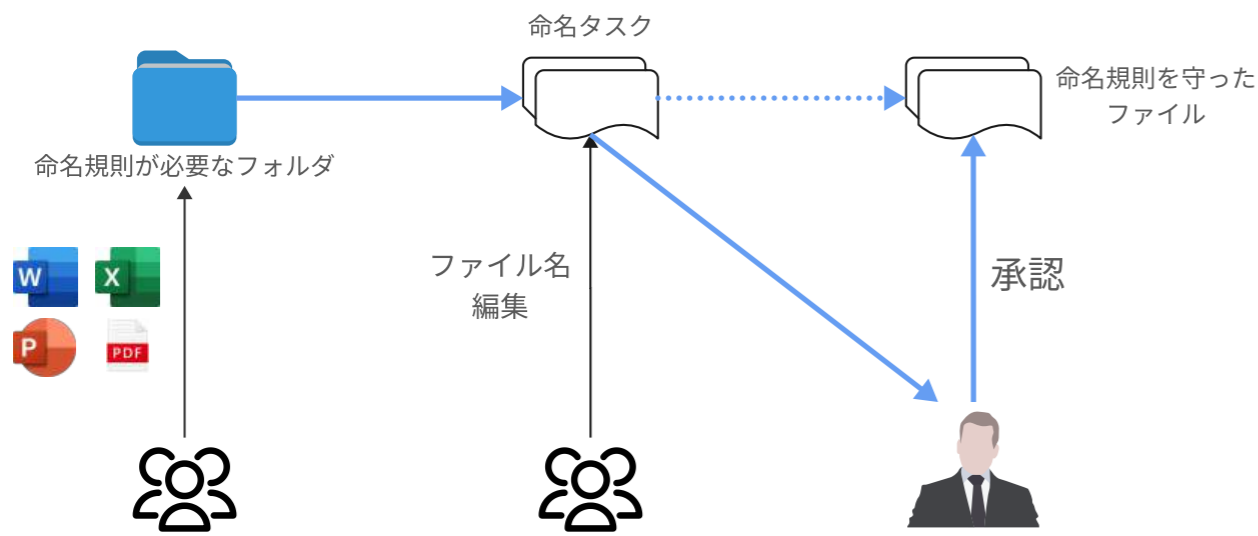
## ルールや整理は必要 探しやすくなる？

フォルダやファイルの命名規則を決める？

例：001\_PJT\_社内\_25年度\_T自動車\_提案書

頭番号?    何かの文字列    公開範囲    親フォルダ名    フォルダ名    ファイルの種類

承認ワークフロー？



## お客様事例より抜粋

### 鹿島石油様

装置設備や操業システムトラブルでは、常に迅速な対応が求められるため、過去トラや関連した仕様書などをスピーディに発見できるかどうか業務および操業影響にも直結します。このような課題を解決するために、当初はファイルの命名規則をルール化しようという取り組みも検討しましたが、既に膨大に散らばっているファイル群を棚卸し、整理することは従業員の負担も増えるため、いかにデータを活用できるかに切り替えて解決策を探るようになりました。

### 高千穂交易様

当初はファイルの整理整頓に着目しましたが、フォルダをゼロから再構成して移動させるのは、手間やコストを考えると非現実的です。また、ルールを策定しても、組織変更で崩れたり守られなかったりする問題もあります。例えば、当社では「個人フォルダを作らない」ルールを設けましたが、部門フォルダ内に個人の領域を作るケースが相次ぎ、結局形骸化してしまいました。

### 三建産業様

当初はファイルサーバの中身の整理を考えていましたが、ファイルの要不要の判断や適切な命名などは、現場の担当者ですら判断が難しく時間もかかることから、ファイルサーバの整理ではなく、いかにデータを活用できるかに着目して解決策を探るようになりました。

どう変わるのか？

何を提供するか？

経営にどう影響するか？

AIの活用

大切なのは、プロセスの改善、環境の整理、リーダーシップ

## ナレッジとして活用

- ナレッジマネジメントの責任者や現場の推進者を設置する。
- 日常の業務フローに情報の蓄積・共有が組み込まれている。
- 定期的に情報が更新され、最新情報になっている。
- 必要な情報が検索可能な状態になっている。**
- 暗黙知も表出化し、共有している。
- 定期的な利用事例共有、勉強会が開催されている。

## 情報の共有

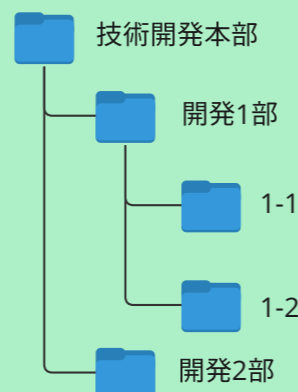
- 情報の集約場所：共有フォルダ
- フォルダの整理：ルールあり
- フォルダのアクセス権：設定あり
- ファイル命名規則：一部あり



## 情報の蓄積

- 文書として残す。
- 文書の種類：不具合報告書、原因分析報告書、再発防止策報告、外部資料、メール
- ファイルの種類：Office系、PDF、DocuWorks, AutoCAD, etc.

フォルダ構成と各フォルダの用途は周知しておく。



重複表示されてしまうファイル名のパターンを把握しておく。

Neuron報告書.xlsx  
Neuron報告書\_r1.xlsx  
Neuron報告書\_bkup.xlsx  
Neuron報告書\_コピー.xlsx  
Neuron報告書\_20250601.xlsx

エンタープライズサーチが必要になる

レベル1

レベル2

レベル3

# 本日のまとめ

1

お客様の課題とエンタープライズサーチの関係

🔄めくる

2

エンタープライズサーチ導入のケーススタディ

🔄めくる

3

課題整理と導入効果の試算の例

🔄めくる

# 次のステップ

情報検索の課題と導入効果について話し合きましょう。

不明な点はブレインズテクノロジーに確認してみましょう。

弊社製品にご興味を持っていただけましたら

弊社営業にご連絡

Level 200のセミナー参加

 www.brains-tec...

 Neuron ES

【セミナー】初めてのエンタープライズサーチ  
Lv.200 | Neuron ES (公式)

開催日程 2025年6月24日 (火) 13:00~13:45  
学べること 製品の基礎知識要件を検討できるようにな [...]